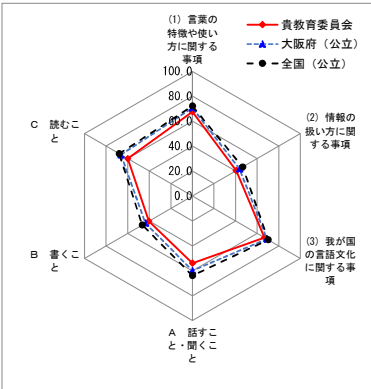


・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象生徒数		阪南市教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	
		400	60,730	891,820	
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		14	64	67	69.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	67.5	70.7	72.2
		(2) 情報の扱い方に關する事項	40.5	43.6	46.5
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	66.8	69.0	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	53.9	59.9	63.9
		B 書くこと	40.5	43.6	46.5
		C 読むこと	60.0	66.2	67.9
評価の観点	知識・技能	64.6	67.5	69.0	
	思考・判断・表現	53.7	59.3	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	70.6	72.1	73.7	
	短答式	65.5	69.6	70.3	
	記述式	46.9	53.5	57.4	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

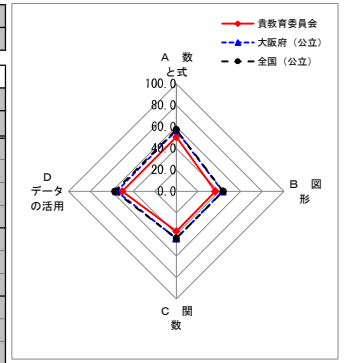
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点	問題形式	正答率（%）			無解答率（%）							
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等				選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）		
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと												C 読むこと	
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する					1ウ						○	○	67.3	73.1	74.7	8.0	5.4	3.8
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く					2エ						○	○	59.3	60.5	65.1	0.3	0.2	0.1
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す					1ア						○	○	35.3	46.0	51.8	28.5	21.4	16.2
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う					2オ						○	○	78.0	81.0	82.3	0.3	0.3	0.2
2二①	漢字を書く（のぞく）	文脈に即して漢字を正しく書く					2ウ						○	○	76.3	79.7	82.1	14.8	10.5	8.8
2二②	漢字を書く（よるこんで）		2ウ				○	○	75.5	80.3	80.5	7.3	4.0	3.3						
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く					1イ						○	○	40.5	43.6	46.5	18.0	12.1	9.0
3一	「臨炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する					1オ						○	○	53.5	53.2	52.5	0.3	0.7	0.7
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する					1ウ						○	○	86.3	84.3	84.0	0.0	0.3	0.3
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える											○	○	55.0	61.5	62.0	2.5	1.3	1.0
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する											○	○	65.0	70.8	73.8	20.5	16.0	13.3
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する					1エ(イ)						○	○	36.8	37.0	39.4	0.0	0.6	0.9
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する					2ウ(イ)						○	○	89.0	90.5	90.1	0.0	0.6	1.0
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する					2ウ(イ)						○	○	74.5	79.4	81.1	0.0	0.7	1.1

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象生徒数		阪南市教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	
		402	60,770	891,913	
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		14	44	51	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	50.5	56.7	57.4
	B 図形	3	36.3	43.2	43.6
	C 関数	3	37.1	43.8	43.6
	D データの活用	3	50.1	55.4	57.1
評価の観点	知識・技能	9	52.3	59.3	59.9
	思考・判断・表現	5	30.4	35.4	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	45.8	51.4	52.6
	短答式	5	57.6	65.6	65.7
	記述式	5	30.4	35.4	36.2

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式	正答率（%）			無解答率（%）		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア(イ)				○	○	41.3	52.9	52.2	17.9	11.6	11.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ア(ウ)				○	○	69.9	74.3	74.5	11.7	6.8	6.1
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している		2(2) ア(イ)			○	○	38.6	43.5	44.9	1.2	0.4	0.4
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(ア)		○	○	34.6	39.7	37.9	1.0	0.3	0.4
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している			1(2) ア(ア)		○	○	76.6	81.5	83.3	0.7	0.3	0.3
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときのどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に述べることができる	2(1) ア(イ)				○	○	69.2	73.4	73.8	10.2	7.2	6.0
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ(イ)				○	○	39.8	47.0	48.7	32.8	23.4	20.0
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ(イ)				○	○	32.3	36.0	37.6	37.1	29.3	26.2
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ(ア)		○	○	40.3	43.7	44.0	3.0	1.8	1.4
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2(1) ア(ア)		○	○	33.3	40.9	44.1	0.7	0.7	0.7
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1) ア(ウ) イ(イ)		○	○	45.8	54.8	54.6	13.4	8.4	7.2
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1) イ(イ)		○	○	30.8	36.7	38.4	36.8	28.4	24.4
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2(2) ア(ア)		○	○	61.7	72.6	73.2	13.9	8.8	7.5
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			2(2) イ(イ)		○	○	8.7	13.4	12.5	50.2	42.4	38.5

・以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

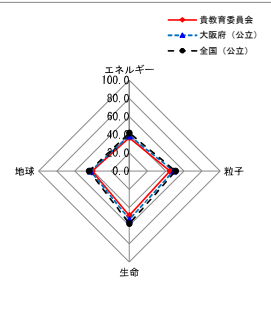
集計結果

対象生徒数		阪南市教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
		403	61,062	892,585

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		21	44	47	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	36.8	38.9	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	44.8	48.7	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	49.1	53.2	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	41.2	42.8	44.3
評価の観点	知識・技能	7	42.6	44.1	46.1
	思考・判断・表現	14	44.3	47.8	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	45.6	47.6	49.6
	短答式	1	19.1	22.0	24.8
	記述式	5	43.1	48.3	53.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域			貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	大阪府（公立）	全国（公立）
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3)	(7)		○	○	46.4	41.2	44.2	0.0	0.1	0.1
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	(3)	(7)		○	○	72.5	75.5	78.5	0.0	0.2	0.1
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるかどうかを、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	(4)	(7)	○	○	○	52.4	52.4	54.2	0.0	0.2	0.2
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	(4)	(4)		○	○	40.0	41.0	40.8	0.0	0.3	0.3
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	(4)	(4)		○	○	25.6	27.2	28.5	0.5	0.4	0.3
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	(4)	(4)		○	○	75.2	77.7	80.1	0.0	0.2	0.1
3 (2)	水素を燃料として使うときの水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の観点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	(4)	(4)		○	○	50.9	59.4	60.2	0.0	0.3	0.3
3 (3)	水素を燃料として使うときの全体の質量を動かせるおおもとを指す	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うときの全体の質量を動かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3)	(4)	(7)	(4)	(4)	19.1	22.0	24.8	8.9	6.0	4.3
4 (1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子に関する違いについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと動きを分析して解釈できるかどうかをみる	(1)	(4)		○	○	66.5	70.0	74.5	12.2	7.9	5.5
4 (2)	脊椎動物には骨格のつくりに関連性があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の観察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	(1)	(4)		○	○	58.6	62.0	65.6	0.2	0.3	0.2
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1)	(4)		○	○	9.7	13.8	15.3	0.2	0.3	0.2
5 (2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1)	(4)		○	○	44.7	43.5	45.0	1.0	0.5	0.4
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の観点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1)	(4)		○	○	28.8	37.5	43.3	45.9	36.3	29.4
6 (1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2)	(7)		○	○	40.2	46.0	48.0	0.2	0.4	0.3
6 (2)	陸上の日地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を、水平方向の変動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	(2)	(4)		○	○	55.6	57.6	60.3	0.5	0.6	0.6
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の傾きに関する知識、空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	(2)	(4)		○	○	33.5	32.5	34.2	0.7	0.7	0.7
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2)	(7)		○	○	30.0	34.0	35.9	0.2	0.5	0.4
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2)	(7)		○	○	48.6	50.4	53.4	1.2	1.1	1.0
8 (1)	アリの行列による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、観察による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	(3)	(7)		○	○	41.9	49.0	55.2	21.6	16.3	11.6
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる	(3)	(7)		○	○	45.7	49.6	55.1	27.5	20.0	14.9
8 (3)	生物Xが昆虫かどうかとアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分組の観点と基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	(1)	(4)		○	○	32.8	35.6	39.2	0.5	1.7	1.4